

## 「国立精神保健研究所50周年記念号 自殺学特集」にあたって

本特集は、国立精神・神経センター精神保健研究所の現・元流動研究員・特別研究員を中心とする若手研究者による特集です。精神保健研究所創立50周年に当たり、このような特集を組むことができましたことを、大変うれしく思っています。

本特集は、2001年末から2002年秋にかけて行われた流動研究員・特別研究員を中心とする自殺学教科書（Comprehensive Textbook of Suicidology. The Guilford press, New York, 2000）の読書会の成果を元にした、自殺学についての総説特集です。

1998年に自殺率が急増して以来、日本では高い自殺率が続き、国立精神保健研究所でも、2000年度には成人精神保健部で健康づくり委託等事業「経済環境及び家族環境と中高年の自殺問題に関する研究」、2001年度からは所長以下精神保健計画部、成人精神保健部を中心として厚生労働科学研究「自殺と防止対策の実態に関する研究」が行われてきました。成人精神保健部の流動研究員は、各プロジェクトに参加する中で、この自殺という極めて社会的に重要な問題に本格的に取り組むにあたり、自殺研究の基礎と最新の知見を改めて押えておきたいという思いから、勉強会を行うことを考え始めました。しかしながら、日本では、過去においては自殺に関するいくつかの名著は存在するものの、その研究について最近の知見を医学、心理学、社会学といった各方面から総合的に解説した教科書は見当たりませんでした。そのようなときに、2001年度成人精神保健部流動研究員太田ゆずさんがカナダの学会参加のあり、米国の自殺学の教科書である本書「Comprehensive Textbook of Suicidology」を見つけてこられ、2001年度12月より、成人精神保健部、精神保健計画部をはじめとするさまざまな部の流動研究員、特別研究員、また、米国の大学院に所属している所外の方なども交え、その講演会を開始しました。

講演会は、単に自殺研究の最近の知見を得るというだけでなく、自殺という極めて学際的アプローチを必要とするテーマをめぐって、心理学、社会学、生物学、法律学といったさまざまな分野の研究者が学際的に議論を戦わせる充実した場となりました。

このような経験を経て、講演会参加の若手研究者一同は、精神保健研究における学際研究また学際的に議論を戦わせる場の重要性和、また、自殺という社会的

重要性の高い問題に関する最近の知見をまとめた形で紹介する必要性を確信し、今田寛睦所長、当時精神保健研究編集委員であった波多野和夫前老人精神保健部長、他、多くの先生方のご支援、ご厚意を得て、ここに、自殺学総説論文の若手による特集を組むことになりました。本特集では、講演会自体の成果のみならず、日本の自殺研究の現状、また、ここ数年の日本の自殺研究、自殺対策の最新の知見・情報も含めて紹介されており、自殺研究・自殺対策への貢献という意味でも価値のある特集になっていると確信します。

人間は「こころ」をもった社会的存在です。科学技術文明の発達により物質的には非常に豊かになった21世紀、再度「こころ」の問題に目を向けることが大切な時代にきていると考えられます。そのような21世紀において、精神保健研究の重要性はますます高まることと確信します。「こころ」「精神」についての研究は、近年の脳科学や遺伝子研究の発達により、新しいフェーズに入ってきました。そのような背景を受け、現在、「こころ」「精神」についての医学・生物学的研究が、ますます盛んになってきています。それはとても素晴らしいことである一方で、同時に、この人間という社会的存在の「こころ」「精神」へのアプローチにおいては、その社会的側面（社会学的、法律学的、経済学的、歴史学的など）、心理学的側面、あるいは文学・芸術的側面が忘れられてはなりません。

医学・生物学的側面からの研究が中心になりつつある精神保健研究所において、流動研究員・特別研究員室の良いところは、文系理系含めたさまざまな分野を専門とする研究者がおり、共に議論をしながら切磋琢磨することができるということです。その成果の一つが、この自殺学特集ということができるでしょう。

本特集が、日本の自殺研究の発展に貢献できるものであることを願うと同時に、この学際的取り組みが、日本の精神保健研究のあり方に小さいながらも一石を投じ、精神保健研究の発展に貢献できるものであることを、願ってやみません。

最後になりましたが、改めまして、本特集にあたり、お世話になりました今田寛睦所長、波多野和夫前老人精神保健部長、また伊藤順一郎社会復帰相談部長をはじめ編集委員会の先生方、事務のみなさま、各若手研究員を日頃温かく見守り育ててくださっている先生方

に、こころから感謝申し上げます。

2003年7月

自殺学特集プロジェクト委員一同

**「自殺学特集プロジェクト」参加者の氏名、所属、専門分野（所属は2003年7月現在）**

**プロジェクト委員**

**プロジェクトリーダー**

石原明子（国立精神・神経センター精神保健研究所  
成人精神保健部、保健社会学・医療政策）

**プロジェクト委員**

駒田陽子（同老人精神保健部、精神生理学）

佐名手三恵（同精神保健計画部、臨床心理学）

林（平野）美紀（同社会精神保健部、法律学・医事  
刑法）

宮崎隆穂（同心身医学研究部、臨床心理学・健康心  
理学）

**プロジェクトメンバー**

飯嶋良味（国立精神・神経センター精神保健研究所  
老人精神保健部、生物学・遺伝子研究）

伊藤香苗（同児童・思春期精神保健部、臨床心理学）

河野梨香（早稲田大学、元国立精神・神経センター  
神経研究所、健康心理学）

酒井厚（山梨大学、元国立精神・神経センター精神  
保健研究所社会精神保健部、発達心理学・社会心理  
学・臨床心理学）

野口博文（国立精神・神経センター精神保健研究所  
社会復帰相談部、ソーシャルワーク）

久永文恵（同社会復帰相談部、リハビリテーション  
カウンセリング心理学）

堀内健太郎（同社会復帰相談部、精神医学）

宮崎朋子（同成人精神保健部、社会心理学・臨床心  
理学）

**講演会参加者の氏名、所属（所属は2001年度当時）**

飯嶋良味（国立精神・神経センター精神保健研究所老  
人精神保健部）、石原明子（同成人精神保健部）、伊藤  
香苗（同児童・思春期精神保健部）、太田ゆず（同成  
人精神保健部）、菊池安希子（同薬物依存研究部）、桑  
原香苗（Process Work Center, Portland）、駒田陽子（同  
老人精神保健部）、佐名手三恵（同精神保健計画部）、  
野口博文（同社会復帰相談部）、林（平野）美紀（同  
社会精神保健部）、宮崎隆穂（同心身医学研究部）